

JR KYUSHU IR DAY 2023

**JR KYUSHU IR DAY 2023**  
**開催にあたって**

---

2023年11月28日

九州旅客鉄道株式会社

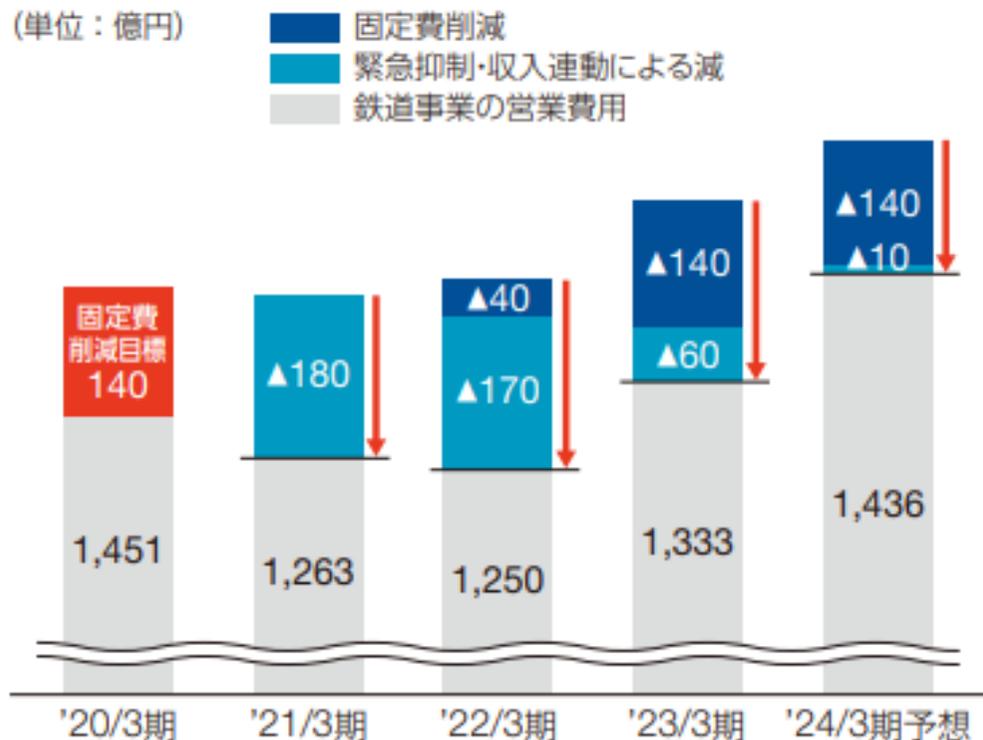
代表取締役社長執行役員

古宮 洋二

# 中期経営計画2022-2024の進捗 | 重点戦略①事業構造改革の完遂

## ● 鉄道事業の固定費140億円の削減は23.3期で完遂

### BPRの完遂



### 主な施策

- DX等を通じた駅係員の不在化、きっぷの販売窓口の廃止、営業時間短縮等



アプリ



ネット予約



チャットボット



リモートサポート

- ご利用状況に合わせた運行体系の見直し  
【2022秋ダイヤ改正】



- 乗車効率を高める車両の改装



車両のロングシート化

- 設備検査業務の効率化、検査精度向上による取替基準の見直し

# 中期経営計画2022-2024の進捗 | 重点戦略①事業構造改革の完遂

- 鉄道事業の中長期的な収支改善に取り組む「未来鉄道プロジェクト」を始動

## 「未来鉄道プロジェクト」の始動

九州のまちづくりを牽引する  
「未来の鉄道」をつくる。

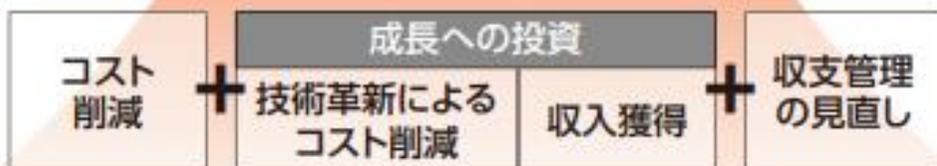
モビリティの進化  
経営体力の強化

セカンド  
ステージ  
2030

- ・ インテリジェントな鉄道
- ・ 持続可能なモビリティサービスの展開

ファースト  
ステージ  
2024

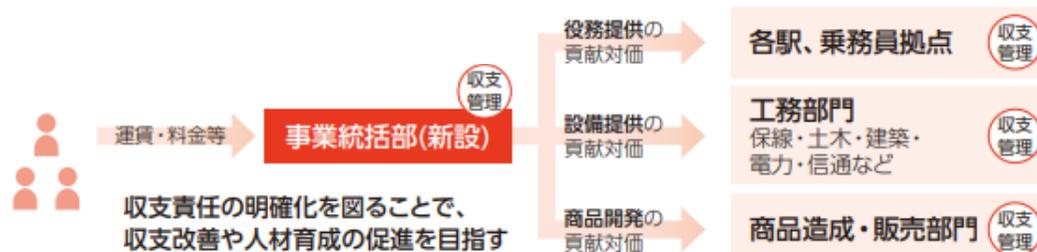
- ・ グループ全体での収支改善
- ・ 持続可能な交通体系の構築
- ・ 技術革新によるセカンドステージの土台作り



**BPR** コスト削減▲140億円  
(継続的に発現)

## 主な施策

- 「アメーバ経営」を鉄道事業にカスタマイズした管理会計の導入



- 多機能検測車 (BIG EYE) の開発



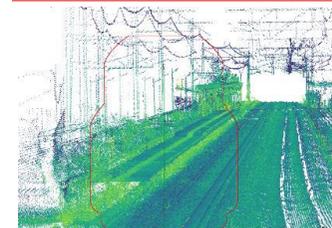
### 軌道検測装置



### 部材検査支援 カメラ装置



### 建築限界測定装置



# 中期経営計画2022-2024の進捗 | 重点戦略②豊かなまちづくりモデルの創造

- 西九州エリアのまちづくりの核となる西九州新幹線とJR長崎駅ビルが開業
- 今後の地域交通のモデルとなりうる日田彦山線BRTひこぼしラインが開業

## 西九州新幹線とJR長崎駅ビルの開業



### 西九州新幹線 10月のご利用者数

約7,100人/日

対22.3期比 109%

対19.3期比 108%

※武雄温泉～長崎間の実績  
※対19.3期比は諫早～長崎間の特急「かもめ」との同曜日比較



### JR長崎駅ビル 開業3日間ご来館者数

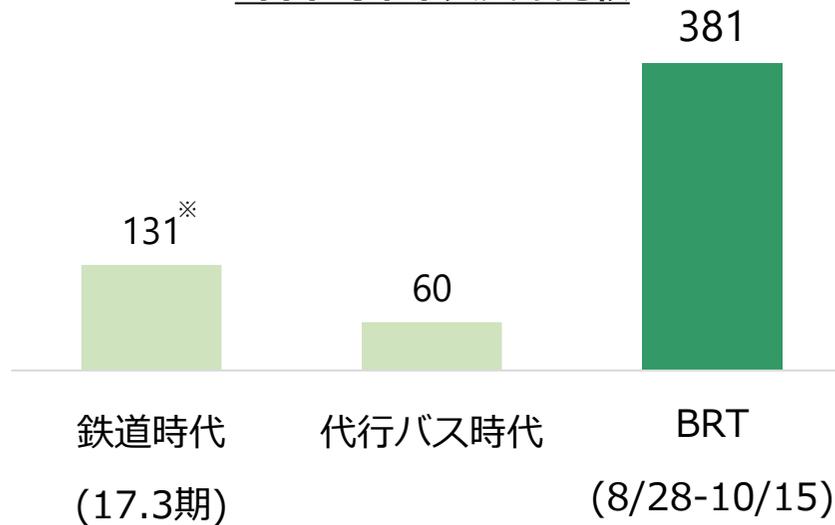
約42万人

<参考> 長崎市推計人口  
39万人 (11/1時点)

## 日田彦山線BRTひこぼしラインの開業



### 1日平均乗車人員の比較



※ 添田～夜明の平均通過人員

# 中期経営計画2022-2024の進捗 | 重点戦略③新たな貢献領域での事業展開

- 建設セグメント内の事業連携を強力に推進し、成長を加速させるべく、中間持株会社を設立

## 建設セグメント中間持株会社の設立

会社名	JR九州建設グループホールディングス株式会社
設立日	2023年7月3日
設立目的	収益拡大を支援する組織を設け、外販の強化、M&Aの実施、会社間の人材・情報を連携する仕組み構築に加え、バックオフィス機能（共通基盤）も強化し、 <b>建設セグメント全体の成長の加速</b> を目指す

### 建設セグメントの目指す姿

上流の企画・計画～設計～施工～維持管理まで、一貫して機能を持つ総合力を発揮し、

- ✓ 幅広い分野・領域で、地域貢献、社会課題解決に貢献する
- ✓ 長く・深く施主や物件とつながり、ニーズに応える
- ✓ 幅広い事業領域を活かし、掛け合わせ、新たな商品や領域を創造する

 JR九州コンサルタンツ株式会社  
JR KYUSHU CONSULTANTS COMPANY

建設コンサル・設計

 総合建設業  
九鉄工業株式会社

建築

 三軌建設株式会社  
JR九州グループ

土木

 KDS  
JR九州エンジニアリング株式会社 JR九州電気システム

設備

【JR九州グループの強み】  
自治体、鉄道、まちづくり

【成長源泉】  
技術力・ノウハウ、強固な人材基盤、会社間連携によるトータルサービス

# ESGの取り組み

E

脱炭素社会の実現

- CO<sub>2</sub>排出量の2030年中間目標が概ね達成見込みとなったため、新たな中間目標とそれに対するロードマップを検討



オンサイトPPA  
モデルによる  
自家消費型  
太陽光発電



バイオ  
ディーゼル  
燃料導入の  
実証実験



グリーン  
ビルディング  
認証の取得

S

価値創造の源泉である  
人づくり

- 新たな人材戦略を策定し、人事・賃金制度の改革を実行
- 経営陣による「全社員を対象とした意見交換会」を実施

G

健全な企業運営

- 取締役の報酬に、非財務KPIとの連動報酬を設定
- 取締役会に必要なスキルセットを改定

# 本日の内容

- 中期経営計画における重点戦略の実行を支える人材戦略とDX戦略についてご説明
- 人材戦略に知見のある社外取締役との意見交換会を設定

中期経営計画 2022-2024

## 事業構造改革の完遂

### 重点戦略①

#### 鉄道事業

##### 黒字体質の安定化

- ✓ BPR\*<sup>1</sup>施策の完遂
- ✓ 更なるコスト削減施策発掘
- ✓ 柔軟な人材活用

#### ホテル事業

##### 既存ホテルの競争力向上

- ✓ ブランド再構築
- ✓ 総合力強化

#### 流通・外食事業

##### ブランド/店舗の競争力向上

- ✓ 出店戦略の見直し
- ✓ 既存ブランド強化・新業態への挑戦

#### 建設事業

##### グループ内から外へ主戦場を転換

- ✓ BPR戦略の推進
- ✓ グループ外売上拡大

\*1 | Business Process Re-engineering

## 長期ビジョン実現に向けた重点戦略

### 重点戦略②

#### 豊かなまちづくりモデルの創造

- ✓ シームレスな交通網を軸としたターミナル駅周辺での複合的なまちづくり
- ✓ 地域資源の発掘と魅力発信・他事業者と連携したまちづくり

### 重点戦略③

#### 新たな貢献領域での事業展開

- ✓ 新たな貢献領域探索・事業展開の足掛かり構築
- ✓ 成果の早期刈り取りによる事業ポートフォリオの強化

### 戦略実行・実現を担う人づくり

#### 人材戦略の推進

- ✓ 社員の“個”の力の最大化による当社グループの成長を目指すため、人材戦略策定・運用(採用/配置、育成、評価)における改革を推進

### グループ一体で戦略を推進する基盤づくり

#### 経営基盤の強化

- ✓ 戦略遂行体制の整備および顧客情報・事業ポートフォリオ管理の仕組み高度化
- ✓ デジタル推進体制構築・人材育成、およびデジタル基盤の整備



取締役

村松 邦子 外 独

非常勤

2023年3月期取締役会出席回数  
12/12回(100%)  
所有する当社株式：535株  
社外取締役在任期間：3年



取締役

山本ひとみ 外 独

非常勤

2023年3月期取締役会出席回数  
10/10回(100%)  
所有する当社株式：538株  
社外取締役在任期間：1年

# 将来の見通しに関する記述について

本資料には、JR九州グループの見通し・目標等の将来に関する記述がなされています。

これらは、本資料の作成時点において入手可能な情報、予測や作成時点における仮定に基づいた当社の判断等によって記述されたものであります。そのため、今後、新型コロナウイルス感染症の状況、人々の価値観やライフスタイルの変化、国内外および九州の経済情勢、不動産市況、各プロジェクトの進捗、法令規制の変化、その他の幅広いリスク・要因の影響を受け、実際の経営成績等が本資料に記載された内容と大きく異なる可能性があることにご留意ください。

弊社IR関連資料は、弊社ホームページでご覧いただけます。

JR九州ホームページ

<https://www.jrkyushu.co.jp/company/ir/library/earnings/>